

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 ネガティブをポジティブに 町内会リフレーミング！！	自治体名 大阪府東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	地域活動への新しい参加のあり方		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	公共政策		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		2.学生
チームメンバー数(公開)	5名		
代表者(公開)	谷 渚 遥紀		
メンバー(公開)	山本 栞、古東 実佐紀、小森 美咲、釣井 麻央		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

「町内会に加入する・しない」の 2 択ではなく「町内会活動に部分的に参加する」という第 3 の選択肢の構築
・町内会・自治会加入率の低下、役員のなり手不足といった、人材に関する困りごとを解消
・地域活動の関係人口の増加につなげる

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

何を：

東淀川区ボランティア・市民活動センターとの連携協働と、公式 LINE を用いた啓発活動・情報発信

誰が：

東淀川区ボランティア・市民活動センター

誰に：

町内会活動に部分的に参加できる人

いつ：

清掃やお祭りといった町内会活動が実施される日

どこで：

東淀川区の各町内会の活動範囲内

どのように：

東淀川区ボランティア・市民活動センターが地域活動に興味がある住民やボランティアに参加したい人と、担い手不足の町内会をつなぐ役割を果たす。

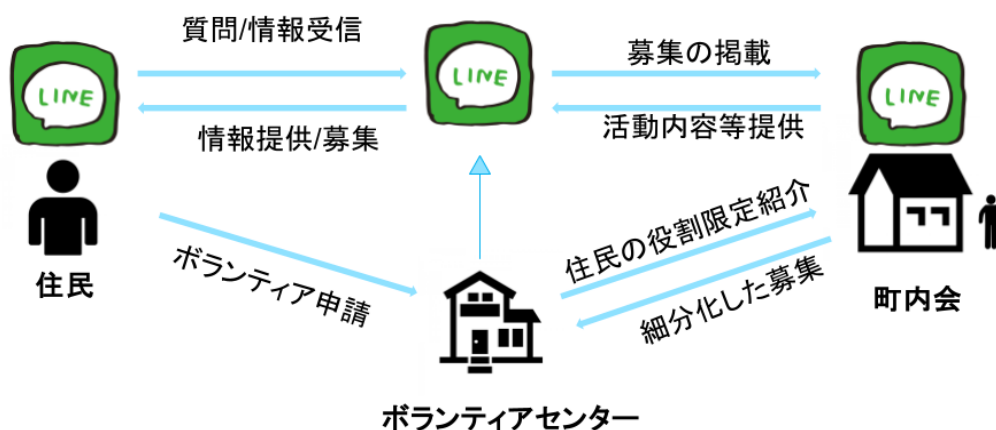
東淀川区公式 SNS による広報→公式 LINE に登録→地域活動へ部分的に参加

町内会の現状

現在、東淀川区では町内会・自治会加入率の低下やそれによる担い手不足が問題となっています。地域活動に参加したいと思って共働きなどで忙しく、地域活動に日常的に参加できないことが担い手不足につながっています。そして町内会活動は「参加する・しない」の 2 択しかなく、それによって活動を制限されていることも担い手不足の要因となっています。

提案するアイデア

そこで、地域活動に興味のある住民が東淀川区ボランティア・市民活動センターにボランティア登録を行い、東淀川区内の地域活動に参加できるようにし、町内会は祭りの設営担当や撤収作業担当のような役割ごとの細かな募集をボランティア・市民活動センターの公式 LINE に提示してもらうことを提案します。ボランティア・市民活動センターを住民と町内会の間に挟むことで、町内会に参加する前にワンクッション挟むことができ、さらに自分ができる役割限定で参加できるようにすることによって、町内会活動への参加のハードルを下げることができると考えました。ボランティアとして地域活動に参加することで町内会の活動内容を知ることができ、自分のできる範囲で継続して行いたいと考える場合には、自分の住んでいる地域の町内会で活動してもらいます。また、地域住民だけでなく、大阪成蹊大学のボランティア単位認定制度を活用し、ボランティアの募集情報を大阪成蹊大学にも流すことで、担い手の確保につなげたいと考えています。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

	加入世帯数	世帯数 (国勢調査年)	町会加入率	(参考)市平均 町会加入率
平成31年調査	48,589	92,435 (平成27年)	52.5%	55.1%
令和2年調査	48,119	92,435 (平成27年)	52.0%	54.3%
令和3年調査	44,418	99,699 (令和2年)	44.6%	48.5%
令和5年調査	43,432	99,699 (令和2年)	43.6%	46.4%

図1 東淀川区における町内会加入率 ※3

このような提案をする理由として、町内会の加入率の低下や担い手不足が問題の背景にあります。これは東淀川区の町内会加入率を示した表で、町内会加入率は年々減少しており、大阪市の平均と比較しても低い水準となっていることがわかります。加入率の減少に伴い担い手も減少してしまい、町内会の継続が難しくなると考えられます。

Q：町内会に入っていない理由は？（複数回答）

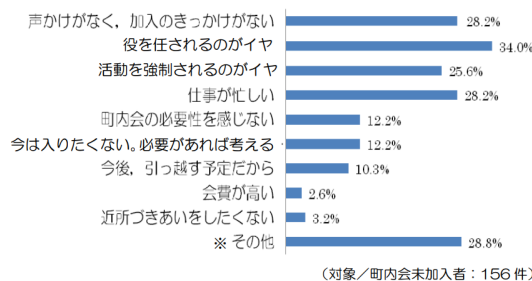


図2 町内会未加入の理由 ※2

町内会に加入しない理由として、加入することで活動を強制される可能性があることや、仕事が忙しく日常的に活動できないことが挙げられています。そのため「加入する・しない」の2択にすると活動できる人が制限されてしまうため、2択ではない新たな選択肢を作る必要があると考えました。

表10-1 地域活動に関心がありますか？ N=583

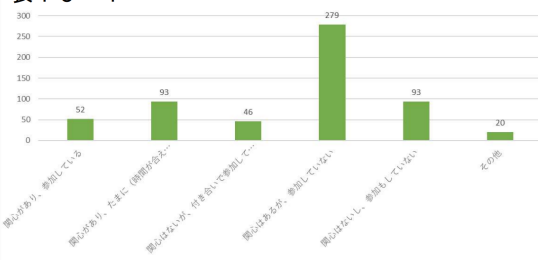


表10-2

	関心があり、参加している	関心があり、たまに（時間があるとき）参加している	関心はないが、付きあいで参加している	関心はあるが、参加していない	関心はないし、参加もしていない	その他
10代	6.9%	17.2%	6.9%	41.4%	27.6%	0.0%
合計	31.0%					
20代	2.6%	10.3%	0.0%	48.7%	23.1%	7.7%
合計	12.8%					
30代	1.0%	16.2%	1.9%	58.1%	21.9%	1.0%
合計	19.0%					
40代	3.5%	13.4%	9.9%	51.4%	15.5%	4.2%
合計	26.8%					
50代	8.8%	12.4%	8.8%	45.1%	15.9%	5.3%
合計	30.1%					
60代	12.9%	16.1%	11.8%	45.2%	6.5%	1.1%
合計	40.9%					
70代	25.5%	25.5%	9.1%	25.5%	5.5%	3.6%
合計	60.6%					
80代	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%
合計	71.4%					

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

図3 地域活動の関心度 ※1

図4 年代別の地域活動の関心度 ※1

また、「地域活動に関心があるか」という質問に対して地域活動に関心はあるが参加していないと回答した割合が圧倒的に多く、近所付き合いの一環として地域活動に参加している人も一定数いることがわかります。年齢別でみると、60代以上の参加率が最も高いですが、10代の参加率もそれに次いで高くなっています。また、20～40代の参加率は低いものの、「関心はあるが参加していない」と回答した割合が多いことがわかります。

表15

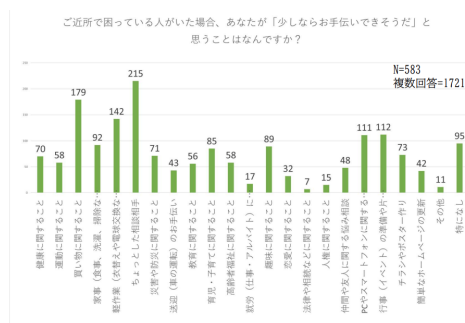


図5 地域活動への貢献に関する調査 ※1

近所で困っている人がいた場合に少しなら手伝えることとして、ちょっとした相談相手や買い物に関する事など、簡単にできることなら手伝える人が多いことがわかりました。また、継続的な関わりよりは単発的な関わりならできる人が多いことがわかります。

SNSの利用について調べると、日本で最も利用されているSNSはLINEであり、幅広い年齢層で普及していることがわかります。LINEをSNSの媒体として利用することで多くの人に利用してもらいやすくなると考えました。

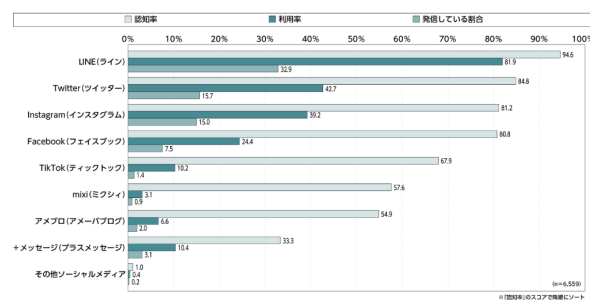


図6 SNSの利用状況 ※4

表3-1

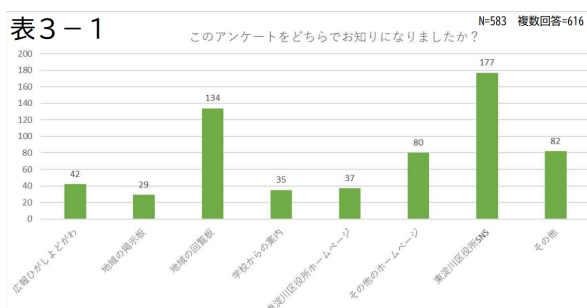


図7 アンケート調査に関する情報入手経路 ※1

東淀川区の自治会に関するアンケート調査をどこで知ったかという質問に対し、東淀川区役所のSNSで知ったという回答が最も多く、東淀川区民にとって東淀川区の公式SNSが最も活用されていることがわかりました。

以上から、町内会に「加入する・しない」の2択しかないことが地域活動に携わる際にネックになっているため、参加したいと思っても参加しづらくなっており、地域活動への参画の障害となっていることがわかります。そのことから町内会活動にボランティアという形で自分ができる役割限定で参加することで、参加のハードルを下げる可以考虑しました。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大きな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大きな規模とその現実的な調達方法**
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実施する主体について

このアイデアの実現は、「東淀川区ボランティア・市民活動センター」が担います。東淀川区ボランティア・市民活動センターは地域に密着したボランティア活動の拠点であり、東淀川区の人材・情報バンクであるといえます。公的な機関が住民と町内会の間に入ることによって、個人情報取り扱いに関する不安を軽減することができると考え、東淀川区ボランティア・市民活動センターが主体となってもらおうと考えました。

2. 実現に必要な資源と調達方法

・ヒト：地域活動に部分的に参加したいと考えている住民、大阪成蹊大学のボランティア単位認定制度を利用する学生

地域活動・町内会活動に興味はあるが継続的な参加が難しく、部分的に参加したいと考える住民が気軽に参加できるように公式 LINE を用いて募集をかけます。また、大阪成蹊大学のボランティア単位認定制度を活用し、ボランティア活動をしたい学生にアナウンスを行うことで人材として取り込みたいと考えています。

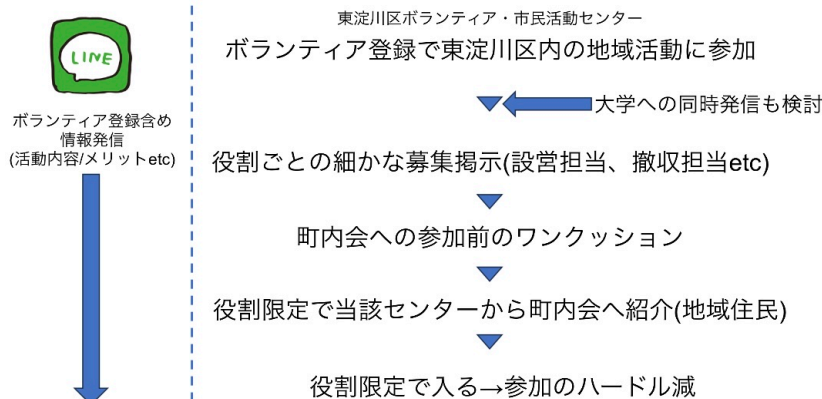
・モノ：東淀川区ボランティア・市民活動センターの公式 LINE

人材募集に公式 LINE を利用することで、幅広い年代の方に好きな時間に登録していただこうと考えています。

・カネ：公式 LINE 利用料金が月額 0～15,000 円（登録者数、送信数による）

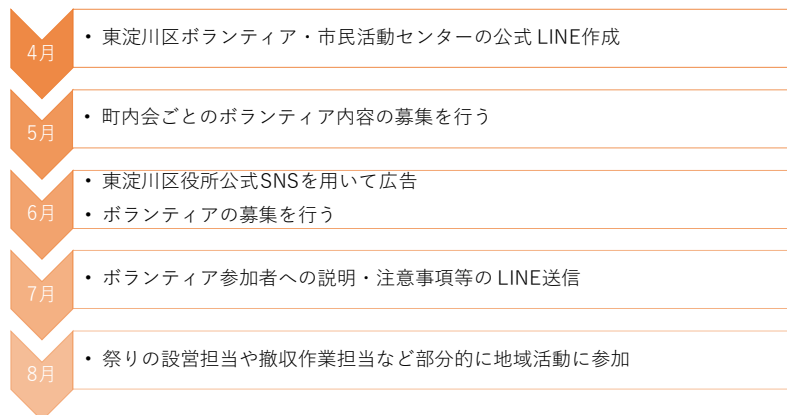
公式 LINE を利用するにあたって、どのプランを利用するかによりませんが、月額 0～15,000 円程度必要となります。負担は大阪市と東淀川区ボランティア・市民活動センターが行うことを考えています。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス



東淀川区ボランティア・市民活動センターの公式 LINE を作成し、ボランティア登録を含め活動内容やメリットなどの情報発信を行います。清掃やお祭りなどの町内会活動が実施される際、役割ごとの細かな募集を公式 LINE に掲示し参加を募ります。役割限定で当該センターから町内会へ紹介し、地域活動に興味がある住民やボランティアに参加したい人と担い手不足の町内会をつなぐ役割を担います。役割を限定して参加することで、町内会活動の参加のハードルを減らすことができると考えています。また、広報は大阪府東淀川区の公式 SNS で行うことで、住民に参加を促したいと考えています。

例) 町内会の祭りでのボランティア参加の流れ



参考文献

1. 東淀川区役所「東淀川区における10年後の地域につなげるインターネットアンケート」

<https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/cmsfiles/contents/0000567/567748/annke-to.pdf>

(2024年12月18日閲覧)

2. 下京区役所「地域のつながり・町内会に関するアンケート」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kita/cmsfiles/contents/0000216/216915/sankou.pdf> (2024年12月

18日閲覧)

3. 東淀川区役所「東淀川区町内会加入促進アクションプラン」

<https://www.city.osaka.lg.jp/higashiyodogawa/cmsfiles/contents/0000449/449209/akusyonnpuran.pdf> (2024年12月8日閲覧)

4. 株式会社NTTドコモモバイル社会研究所「モバイル社会白書2023年版」

https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp23/pdf/wp23_all.pdf (2024年12月19日閲覧)